

喜界町ジオパーク基本構想



喜界町ジオパーク基本構想検討会

目次

はじめに (p1～p3)

- 1 喜界島の地勢・現状・・・p1
- 2 基本計画の目的と位置づけ・・・p1～p2
- 3 ジオパークとは・・・p2～p3
- 4 ジオパーク活動で可能な地域の発展・・・p3
- 5 喜界島ジオパークのこれから・・・p3

取組 (p4～p6)

- 1 観光・・・p4～p5
- 2 教育・研究・・・p5
- 3 防災・・・p5～p6
- 4 保全・・・p6
- 5 運営・・・p6

はじめに

1. 喜界島の地勢・現状

① 地勢

喜界島は、奄美群島の東北端、北緯 28 度 20 分、東経 130 度 00 分の地点にあり、鹿児島港から約 368 k m、沖縄那覇港から約 322 k m、奄美大島から最短距離で約 24 k m の洋上にある島です。総面積は、56.82 k m あり、南南西から北東に長く 14 k m、東西の最長 7.75 k m、周囲は約 50.0 km、最高位は、211 m となります。人口は、7,120 人（平成 30 年 4 月 1 日現在）となっており、基幹産業は農業と畜産業で、アルカリ性土壌を活かしたさとうきび栽培や園芸、子牛の生産が盛んとなっています。平坦な島であり、島の大半は隆起サンゴ礁です。

② 現状

喜界島でも、日本全国と同じく高齢化の波が進んでおり、高齢化率が 37.5%（平成 29 年 10 月 1 日現在）となっており、全国平均の 27.7%（平成 29 年 10 月 1 日現在）を大きく上回っているのが現状です。また、人口減少も著しく、昭和 35 年に 14,000 人以上いた人口も半分近くとなっています。高齢化・人口減少に伴い、基幹産業である農業の担い手も減少していることから、対策が急務となっています。

また、奄美群島においては、奄美大島、徳之島、沖縄北部及び西表島の世界自然遺産登録へ向けた自然資源の保護・保全やエコツアーガイド認定制度の構築など、自然保護・観光振興を目的とする取組が、多様な主体により実施されています。本町においても多様化する観光ニーズに対応しうる戦略的な観光振興施策の展開を図っていく必要があり、前述したように、人口減少・高齢化が急速進展する中、交流人口の拡大により地域の活性化につなげていくことが求められています。2017 年には、「喜界町観光振興計画」を策定し、「きらりとかがやくいい島」の実現に向けて様々な施策を行っています。

2. 基本計画の目的と位置づけ（喜界町観光振興計画との関係性）

喜界町は「喜界町観光振興計画」の中で、以下の 6 つの基本方針を掲げています。

- 1 喜界島の特色ある地域資源を活用したアカデミックな観光の展開
- 2 農業など一次産業と地域の食をつなぐ観光の文脈づくり
- 3 自然資源の保全・活用と広域的なエコツアーリズムの推進
- 4 歴史や文化、集落景観を生かした観光の推進

- 5 地域住民が島の魅力を伝える仕組みづくりと人材育成
- 6 観光動向を把握した計画的な情報発信と観光基盤の整備

ジオパークに関する取組は、島にある資源を知り、島民ひとりひとりが島の魅力を伝え、島民等の交流を通じて関係人口を図ることであることから、上記基本方針を実現するための具体的な取組として位置づけることができます。

喜界観光振興計画

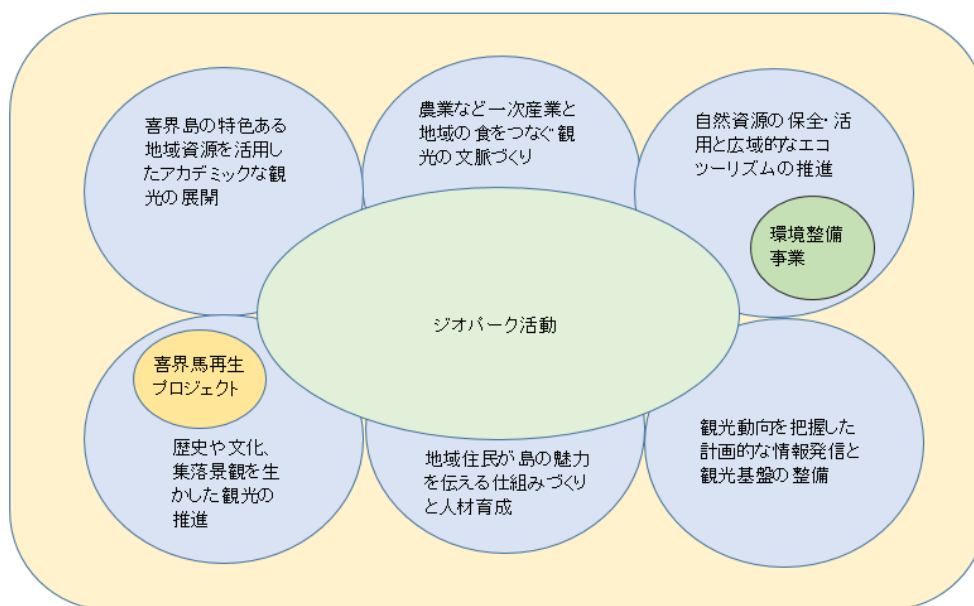


図 喜界観光振興計画とジオパーク活動の関係性

これらの取組を通じて、交流人口の増加、雇用の創出（農業の担い手不足解消）、人口の増加、地域に誇りを持つ島民の育成につなげることを目的として基本構想を策定するものです。また、観光、教育、歴史、文化など多分野に関わることから、行政内各部署が横断的に連携するとともに、教育機関や研究機関、地域住民などの関係者が一丸となって取り組んでいく必要があります。

次項より、具体的な活動内容である観光・教育・研究・防災・保全・運営に関して計画を記します。この計画は、数年ごとに適宜見直しが行われ、修正されることを前提につくられています。

3. ジオパークとは

GEO（地球・大地）と PARK（公園）を組み合わせた造語で「大地の公園」とも言われています。

地形・地質などの自然資源の地域を観察し、その成り立ち等を読み解き、そこにある生態系やそこで暮らす人々の歴史や文化との関わりを考える場所となっています。

持続可能な地域社会の形成や地域振興のために、地域の様々な自然資源の保全と教育や観光等への活用を図る仕組みとなっています。

4. ジオパーク活動で可能な地域の発展

少子高齢化が進む喜界町ではありますが、世界有数の隆起スピードで隆起するサンゴ礁で形成された島であり、サンゴの石垣等の魅力的な集落景観やサンゴ礁と共生してきた歴史・文化が密接に関係している希少価値の高い島となっています。

そこで、ジオパークの活動を通し、地域文化の掘り起こしやサンゴ礁科学研究所等と連携を図り、島の魅力を島内外へ発信することで、地域文化の継承、交流人口の増加など地域の活性化につなげていければと考えています。また、喜界島は、過去10万年から現在のサンゴ生態系を学ぶ上で、世界的に希少な地域ですが、地域住民や観光客が喜界島の自然の素晴らしさを十分に理解する場がないのが現状です。そのため、地域住民が喜界島の特異的なサンゴ礁と共生してきた文化、地形や生物多様性を自ら発信することが出来るよう、喜界島全体をジオミュージアムとして捉え、地域住民が主体となった「喜界島サンゴ礁ミュージアム」づくりを実施し、喜界島の自然・文化資源価値の再認識とそれを活かした地域の活性化を考えています。

さらに、隆起後10万年と若い土壌で育まれた喜界島固有のそら豆や柑橘類、日本一の生産量を誇る白ごまなど農業資源も有していることから、ジオパークと結びつけた産業の活性化も目標としています。

以上のことを踏まえ、島民自身が島のことを学び、誇りを持って語れるようになり、卒業して島を離れる子ども達が、「帰ってきてここで暮らしたい」と思う持続的な地域を築き上げられればと考えています。

5. 喜界島ジオパークのこれから

今後、「喜界島ジオパーク推進協議会（仮）」を設立し、本格的活動を行っていきたいと考えています。2019年4月以降に、喜界島ジオパークを日本ジオパークネットワーク（以下「JGN」という）の準会員に申請し、順次、JGN正会員に向け、環境の整備を行っていきます。

取組

1. 観光

① ウェブサイト

現在、本町のホームページには、ジオパークに関する情報がありません。今後は、ジオパークに関する情報をまとめたページをつくり、情報発信をしていきます。本町の住民への周知とともに、本町に興味を持った方々が、町のホームページから情報を得て理解し、スムーズに来島するための手助けとなるウェブサイトの充実を図ります。

② パンフレット

ジオパークはまだ認知度が低いため、「ジオパークとは何か？」から解説を始め、ジオパークとしての喜界島の特徴や見所を概説できるものを作成します。また、ジオストーリーをまとめた詳しいパンフレットを作成することを検討します。

③ 看板

実際に島に来島した方が、喜界島がジオパークを目指していることを認識できるように、総合案内板の設置を検討します。また、各ジオサイトにジオサイト案内看板を設置し、そのサイトで見るとべきポイントや重要性などを記したジオサイト案内看板を整備します。

④ ガイド

現状では、地質学的な内容を説明出来るガイドはおりませんが、よんよーりと呼ばれる地域集落を案内されるガイドが8名おります。また、喜界島にはサンゴ礁科学研究所や埋蔵文化財センター、歴史民俗資料室があり、自然や歴史について学ぶ機会を設けることは可能です。今後、サンゴ礁科学研究所や埋蔵文化財センター等と連携して、ツアーガイドの育成講座を実施していきます。また、リスクマネジメントや安全確保等について学べる場を設け、専門知識だけではない質の高いガイドの養成につなげます。

⑤ ツアー

ジオパークとしての来島者を増加させるため、ツアーの開催を検討します。島民ガイドの実践の場であり、来島者の増加を島民に実感して貰うことも目的の一つとなります。ツアー内容は、今後検討していきます。

⑥ 特産品

地域への収益をあげるため、ジオパークに関連した特産品開発を検討します。白ごまや黒糖等を活用した特産品の開発を出来ればと考えます。

⑦ 調査

来島者の来島目的の情報把握やジオパーク活動の評価につなげるアンケート調査等を行い、喜界島に求められているものの把握及びジオパーク活動の発展につなげていきます。

2. 教育・研究

① 教育

現在、サンゴ礁科学研究所において、小学校の出前講座や小・中・高校生を対象にしたサイエンスキャンプを行っています。これらの活動にジオパーク活動の話を組み込むことでジオパークに関する教育につなげられればと考えています。また、理科の授業に隆起サンゴ礁の話を交えたり、社会や歴史の授業に埋蔵文化財の話を交えたり、児童・生徒による観光マップを作成させたり、各学校のカリキュラムに対応した支援づくりを行います。

② 生涯教育

今後は一般向けの「サンゴ塾」と呼ばれる学習の場の提供や講座等を行うことで、生涯教育にもつなげていきます。また、「公民館講座」を活用し、「喜界島ジオパーク市民大学（仮）」を立ち上げ、町も一体となり、ジオパークの教育に携わっていただければと考えています。

③ 研究

現在、喜界島の魅力を引き出すため、喜界町から依頼し、研究を行って貰う方に対し、旅費等の補助を行っています。今後は、依頼した方に町民に向けた情報共有の場を設けていく予定です。また、研究職・学生問わず喜界島に関する論文を収集し、データベースの作成を行います。

④ 展示

現在、サンゴ礁科学研究所、埋蔵文化財センター及び歴史民俗資料室において学術展示が行われています。これらの内容をさらに充実させ、島民及び観光客に喜界町がジオパークに向け活動していることや島全体がジオパーク活動に携わっているという意識付けにつなげていきます。

3. 防災

① 防災教育

防災教育については、大島支庁が砂防教育について小学生を対象に行っていますが、一般向けについては開催されていません。災害は繰り返しかかるものです。現在、サンゴ礁科学研究所が津波石の研究や生きているサンゴから津波の跡を探す研究を行うことで、過去の地震頻度を調査してい

ます。これらの研究をサンゴ礁科学研究所と連携して活かし、防災教育を行っていきます。

② 設備・備品

現在、喜界町には防災食育センターがあり、1600食の非常食及び飲料水を備えています。また、喜界町役場には避難した方が使用する毛布等を確保しています。

4. 保全

喜界町民が誇るべき宝である喜界島の自然を次世代に残すべく、現在の環境がかわることがないように、喜界島全体の保全に努めていきます。

また、観光客が気持ちよくジオサイトを見て学べることができるよう、ジオサイト周辺の環境整備に努めます。

5. 運営

① 協議会

喜界町では、喜界町ジオパーク基本構想検討会を経て、喜界町ジオパーク推進協議会（仮）を設立します。推進協議会は、年2回程度を予定しております。

② 地域のジオパークに対する理解を深め、つながりをつくる

協議会で扱う内容を住民に伝達することが今後求められます。説明会やワークショップ、ガイド講習など様々な活動を通して島民のジオパークに対する理解を深め、地域に新たなつながりを作ります。

当計画は喜界町ジオパーク基本構想検討会により原案が提示され、策定されました。

委員会の構成員と開催状況は以下のとおりです。

構成員

委員	西村 千尋	長崎県立大学経済学部 教授
委員	佐々木 圭一	金沢学院大学基礎教育機構 准教授
委員	駒越 太郎	喜界島サンゴ礁科学研究所 研究員
委員	外内 淳	よんよーり喜界 代表
委員	喜禎 康祐	株式会社 喜禎運送店 代表
委員	土岐 宏大	喜界島観光物産協会 代表
委員	勝田 盛久	喜界商工会
委員	牛鼻 浩之	喜界商工会
委員	長元 武彦	喜界町校長会 代表
委員	菊地 典子	喜界町教育委員会総務課 課長
委員	來 和法	喜界町教育委員会生涯学習課 課長
委員	野崎 拓司	喜界町埋蔵文化財センター 係長
委員	富 充弘	喜界町企画観光課 課長

事務局 喜界町企画観光課

敬称略

開催状況

平成 30 年 6 月 29 日

平成 30 年 8 月 3 日

平成 30 年 11 月 16 日

平成 31 年 2 月 4 日